

氣比の杜整備構想（案）

基本方針について（コンセプト案：市民の活動を表現する）

- ・ 氣比神宮周辺公有地等利活用事業（以後、「氣比の杜整備構想」とする）は、以下のコンセプトとして定める。（※小規模で飛地となる「武道館敷地・税務署跡地」については、要となる旧北小跡地の主要な計画の検討とあわせて、基本計画策定の中で検討する。）
- ・ 本市では、市民の学びと交流を重視し、人々の内側で起こる「探求」と関係性の間で起こる「創発」の双方を誘発する新しい形の文化施設を目指します。

氣比の杜整備構想 コンセプト

基本方針

敦賀の「文化の発見&発信地」として、
市民の学びと交流のインフラを支える「緑豊かな共生の杜」を持つ「探求・創発エリア」

I. 歴史・文化振興

氣比神宮の価値を高め、敦賀の歴史と文化を後世に伝え・発信する

氣比神宮の歴史や天筒山への景観、緑地に配慮した施設整備を行うことで、氣比神宮及びその周辺エリアの地域をより魅力的にすることを目指します。また、敦賀や氣比神宮、松尾芭蕉の魅力を市民が再発見し、国内外へ発信する拠点施設とすることを目指します。

II. 商業振興

市民参画と官民連携を通じ、多様な賑わいを創出する

施設の運営における市民の関与を推進するとともに、施設の整備・運営における民間活力の活用、周辺の商店街との連携により、郷土愛とシビックプライドを育むとともに氣比神宮周辺一帯における多様な賑わい創出を目指します。

III. 駅周辺・交通対策

ちえなみき等との連携により駅からの回遊動線を創出し、市内全域を活性化させる

敦賀駅を起点とした周遊拠点の一つとして位置づけ、ちえなみきとの連携により駅からの回遊動線の創出を目指します。また、駐車場やバス路線等の整備により、地域のハブとして多くの人々が周辺地域を行き交うことができるまちを目指します。

IV. 交流拡大

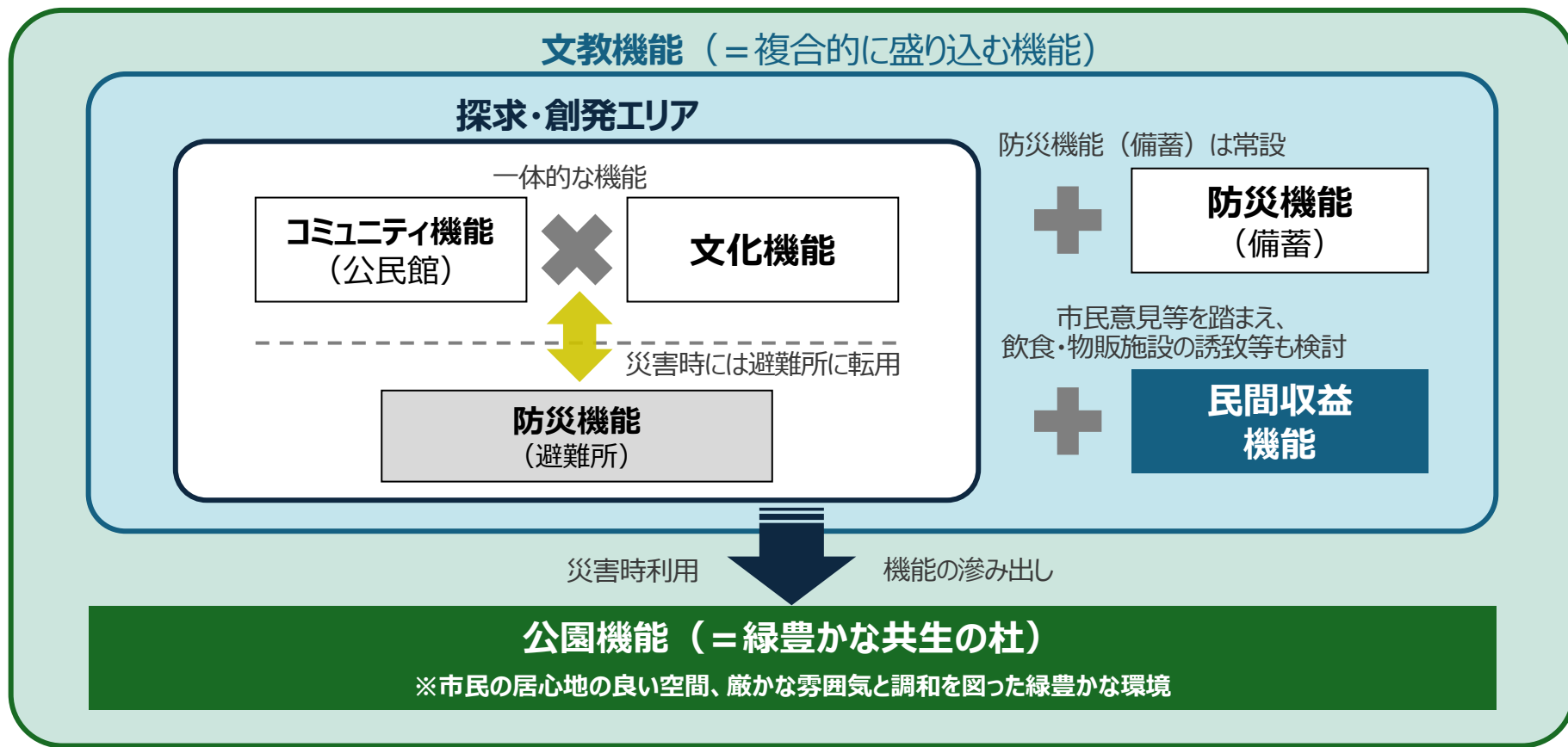
市民の新しい居場所として市民の活動を支え、交流を促進する

施設を市民の新しい居場所・活動拠点として位置づけ、市民同士の交流を促進するとともに、敦賀の歴史・文化の発信や施設における交流を契機とした、敦賀市における関係人口の増加を目指します。

1. 導入機能の検討／導入機能の全体像

- 導入機能については、文化機能、コミュニティ（公民館）機能、防災機能、公園機能の4機能の導入が「敦賀アクションプログラム」で掲げられており、今回、文化機能の具体的な内容について検討を行うとともに、市民ワークショップ・アンケート結果等を踏まえ、賑わい創出等に資する民間収益機能についても導入を検討するものとする。
- 導入機能は、従来の縦割りの複合を脱却し、ネットワーク的・融合的なあり方を目指すものとする。
- 各機能の関連性を考慮し、以下の関係性を想定する。

氣比の杜整備構想（仮）（＝氣比神宮周辺公有地等利活用事業）



2. 導入機能の検討／文化機能・公民館機能の整備方針

- 文化機能・公民館機能については、それぞれ別個の機能としてではなく、「**探求・創発エリア**」として融合的に整備するものとする。
- コミュニティセンター機能を核に書籍があるエリア・アートがあるエリア・物語が感じられるエリアを重ね合わせ、交流・鑑賞・学習等を通じて、互いに触発しあう場を目指す。

探求・創発エリア

コミュニティセンター機能

- 地域コミュニティの核であると同時に、市民の学びや交流を促進する「触媒」として位置づける。
- 既存の公民館の機能をベースに、借りた書籍等を長時間読んだり、書籍を基に勉強したりする機能や、貸し会議室・ホール等を活用した市民・観光客参画型のイベント（例：講演会、演奏会、アートプログラム、俳諧体験イベント）等を民間活力を活用しながら実施する。

相互に行き来する

ナレッジ機能（＝書籍があるエリア）

- 「市民や観光客の知的好奇心を満たす」ことを念頭に選書する「リベラルアーツ特化型図書エリア」。
- 他機能の連携を重視し、敦賀・氣比の歴史や近代美術等に関する選書（キュレーション）を特に重視。

一体的整備

相互に行き来する

ギャラリー機能（＝アートがあるエリア）

- アートが「感性を触発する」きっかけとなることを期待する展示機能。
- 美術に興味がない人を念頭に、展示室は最小限に書籍エリア等と一体的に整備し、「美術品がある空間」を目指す。

相互に誘導

相互に行き来する

アーカイブ機能（＝歴史・物語が感じられるエリア）

- 敦賀や松尾芭蕉、氣比神宮に関する学習や史料の閲覧・鑑賞ができる機能。
- 展示自体は小規模なものとし、興味に応じて書籍があるエリアや美術展示、公民館におけるプログラム、その他市内他施設に誘導することを重視。

敦賀の魅力の再発見する場、興味関心に沿った学び・交流の場として位置づける

市民

市民・観光客の知的好奇心を満たす

観光客

敦賀の魅力を受け身ではなく、主体的に発見する場として位置づける

3. 導入機能の検討／公園機能の整備方針、防災機能の整備方針

【公園機能（＝緑豊かな共生の杜）】

- 公園機能は、市民にとっての居場所であると同時に、「探求・創発エリア」が滲み出す場として整備する。
- 市民が長時間滞在できるように整備するとともに、学び・交流を行う市民の息抜きや、市民・観光客参画型のイベントの場としても活用することができる場として整備することを目指す。
- また、事業にあたっては、「氣比の杜分科会」や、市民ワークショップ等で寄せられた意見を踏まえ、氣比神宮の緑地・植生との連続性や天筒山の景観への配慮するとともに、氣比神宮から北側道路に通り抜けができる通路の整備を行うものとする。
- また、旧境内の範囲については、可能な限り施設整備を行わず、過去の氣比神宮との歴史的な連続性を重視するものとする。（小規模建築物・工作物を除く）



【防災機能】

- 災害時においては、探求・創発エリアの用途を転用し、避難者の収容を行うことを前提とし、適切な耐震性を確保するとともに、多様な属性の市民の避難を考慮するものとする。公園機能においても、避難者の受け入れや物資の集積拠点等として活用する可能性についても今後検討を行うものとする。
- また、災害時の避難者数を踏まえた、備蓄を行うものとし、災害時備蓄倉庫を整備するものとする。また、必要な備蓄においては、民間活力を活用したローリングストックの可能性等も含めた、多角的な検討を実施するものとする。

4. 導入機能の検討／民間収益機能の整備方針

- 市民ワークショップ等において、魅力的なカフェや、地域の特産品等を購入・飲食することができる飲食・物販施設を要望する意見が多数聞かれた。
- また、視察等を行った施設においては、民間事業者による出店やノウハウ活用により、賑わい創出を行っている施設を複数確認することができた。
- 施設整備における敦賀市の財政負担を軽減する観点から、地代収入や使用料等を得ることのできる民間収益施設の誘致に関しては、その可能性について、積極的に検討するものとする。
- 以上の観点から、これまで検討が行われてきた4つの機能に加え、「民間収益機能」の導入に関しても、今後積極的に検討を行うものとする。

那須塩原市図書館みるるのカフェ（左上）と須賀川市民交流センターカフェスペース（右下）



市民から要望のあった
民間収益施設

- カフェ・喫茶店・レストラン
- 物販施設、道の駅、土産屋
- 体験型施設
- 子どもの遊び場、子育て支援 等

その他導入が考えられる
民間収益施設

- ドラッグストア（ローリングストックの活用）
- レンタサイクル
- 有料駐車場 等

出所（左）：森林の牧場HP (<https://www.shinrinno.jp/morricone/>)

出所（右下）：須賀川市民交流センターHP (<https://s-tette.jp/about/005273.html>)